hida
広報
ひだ
町木
第46号
肥田町
まちづくり委員会
H20.4.1発行

ご挨拶

自治会長　薩摩四郎

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。この度、自治会長を務めさせていただく事になりました。このような大役に身が引き締まる思いでございます。皆様方のご支援ご協力を頼りに楽しく任務を全うしていきたいと思いますので、何とぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年二月の選挙総会におきまして副自治会長という重責を指名され、一年間藤野喜代蔵自治会長のもと勉強してまいりましたが、自治会組織活動等また町内全般的なこともまだまだ認識不足で不安です。無知無能な私ですが歴代役員、町民皆様のご指導、ご協力のもと肥田町の活性化へ微力ながら精一杯努めさせていただく所存でございます。

さて、本年度は進んできました田園区画整備事業も、最後の年に入り今年は大変重要な年になろうかと思います。昨年度から始まりました世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策（農地、水向上活動、環境向上活動）、肥田町自治会におきましては、自治会、改良組合、生産組合、まちづくり委員会が軸になり、肥田町民全員の協力のもと「（まちおこし推進協議会）」と称して取り組んでおります。この事業は五ヶ年計画で進んでおります。今後とも尚一層のご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、今年は明るい肥田町、明るい町づくりに努力していきたい、また、少子高齢化時代、お隣同士の交流、親睦も深めていただきたいと思います。今年一年間いろいろお世話になりますが、よろしくお願い申し上げます。

皆様の幸せを願って

民生委員　福原妙子

雪の多かった今年の冬も過ぎ、ようやく身も心も動きやすい季節となりました。

昨年の十二月より、私が民生委員の大役をお受けすることとなりました。以前は肥田・野良田両町を兼任して一名の民生委員でしたが、今回の編成では別々となり、肥田町とセリージュ彦根を担当することとなりました。民生委員一年生ということでわからないことも多く、皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、気軽に声をかけていただけたらと願っております。

民生委員の仕事には高齢者支援、障害者支援、子育て支援等多くの活動がありますが、そのどれもが皆様の日々の生活に密着したものばかりです。普段より、もし困っておられることや、わからないことなどありましたら、遠慮なくご相談ください。微力ながらも少しでも力添えできればと思っております。また、皆様から寄せられる相談や悩みについては、秘密を守り、誠意をもって対応させていただきます。ただ、私たちの仕事はあくまでボランティアで専門職ではありませんから、期待されるほど大きな力にはなれないかもしれません。でも、皆様とお話ししながら見守り、励まし、関係機関への橋渡し等のお役に立てたらと考えております。

私自身、長い間勤めに出ていたため、肥田町に居ながらも地域とのつながりはあまりもていませんでした。この機会に少しでも皆様とふれあい、お役に立てればと思っております。どうかよろしくお願いいたします。

平成20年度　ピカピカの1年生

ご入学おめでとう

「大きくなったら私の夢は」
「私の大好きなものは」

藤野　陽菜（ひな）さん
お父さん…藤野信敏

私は大きくなったら、みんなを元気にするマッサージやさんになりたいです。
私の大好きなことは、てつぼうの、さかあがりです。

伊関　傑（すぐる）さん
お父さん…伊関正人

大きくなったら、動物園の飼育係になりたいです。動物が好きで一緒に遊べるからです。
私の大好きなものは、こまとドミノと本です。

平成20年度 肥田町自治会役員

自治会長	薩摩四郎
副自治会長	大家勝治
改良組合長	宮川喜弘
副改良組合長	児玉和男
文教部長	矢守貫一
体育部長	鵜野　忠
福祉部長	辻野久和
環境部長	成宮克豊
会計部長	青木　洋
水利防除会計部長	宮川幸司

皆様の一層のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

祝　中学へ進学おめでとう

これからの中学校生活、新しいお友達も増えて、今までと異なった、しっかりした自分づくりの時間です。部活動では集中力を養い、将来の夢を近づけましょう。

将来の夢は

伊関　建士さん	プロ野球の選手になり、新記録を作りたい。
鵜野　葵さん	笑顔の優しい保育士さんになりたい。
大村　莢歌さん	古着屋さんで働いて、古着を集め売りたい。
成宮　えりさん	明るく優しい幼稚園の先生になりたい。
藤野　元太さん	プロ野球の選手になり日本代表に選ばれたい。
前田昇太朗さん	ゲームと本を売っている店で働きたい。

（将来の夢は稲枝東小学校広報「稲穂」より）

皆さんの元気いっぱいの成長を祈っています。

ブック紹介コーナー

「写真で綴る湖国の原風景　昭和三十年代の記憶」

写真と文　野村しづかず

肥田町出身の加藤貞一氏から、彼の彦根東高時代の同級生で湖東在住の野村しづかずさんの作品をお送りいただきました。この作品では、野村氏が昭和三十年代に撮っておいた写真を、同じ風景を同じ場所で平成十九年に写真に収めて、その時代の暮らしの変遷を文章で個々にまとめておられる記録で、「こんなこともあったなあ」とその時代に生活した人々にとって貴重な記憶を懐かしく甦らせてくれる素晴らしい作品です。若い人とも語り合って頂ける意味のある作品です。加藤氏も是非とも肥田の公民館に置いてもらって広く皆さんにご覧いただければと願っておられます。肥田町公民館に備えておきますのでご覧ください。

連載・戦国城下町肥田（1）

髙瀬俊英

肥田には昔お城があった、といわれています。いつごろ、どんなお城が、どの辺にあったのか、お城があったために、肥田はどんな歴史をたどったのか、わかっている範囲で述べたいと思います。

一

肥田町公民館の大広間正面の壁画に肥田城の想像図が描かれていますが、城のつくりは、彦根城や大坂城とはずいぶん違います。

肥田城が石垣や土壁の城でなく、木材の屋形を組み合わせた城であるのは、彦根城などよりも百年もまえに造られたからです。室町時代の後半百年ほどを戦国時代といいますが、その初め頃に肥田城は造られました。（1500年頃）

戦国時代の後半になって、いくさの武器として鉄砲や火薬が使われだすと（1543年にヨーロッパから伝来）、城の造りも徐々に彦根城のように変わっていったのです。

二

肥田に長くお住まいの方なら誰でも親しみをこめて呼んでいる「小字名（こあざめい）」は、肥田の歴史をしらべるのにずいぶん役立っています。

肥田城がどの辺にあったかという書き物や図面は現在残っていません。

ただ、江戸時代のはじめ、井伊藩によって肥田城が取り壊されたという記録があるだけです。1650年に、堤をこぼち、堀をうめ、土石をはこび、開墾して「新田」三町五反九畝十七歩を得た、と書かれています。この三町五反云々は、現在の上新田（かみしんでん）、下新田（しもしんでん）の合計面積とも一致しますし、まずこの辺に城壕や城壁があったといえましょう。

また肥田の古老の方の言い伝えでは「山王（さんのう）」、「月山（つきやま）」は小高い丘だったといわれ、「山王」あたりからは壷にはいった古銭や古陶器などが出土しており、城楼や城郭が考えられます。

要するに「上新田」から、下（しも）約200m四方くらいが肥田城趾ではなかったでしょうか。

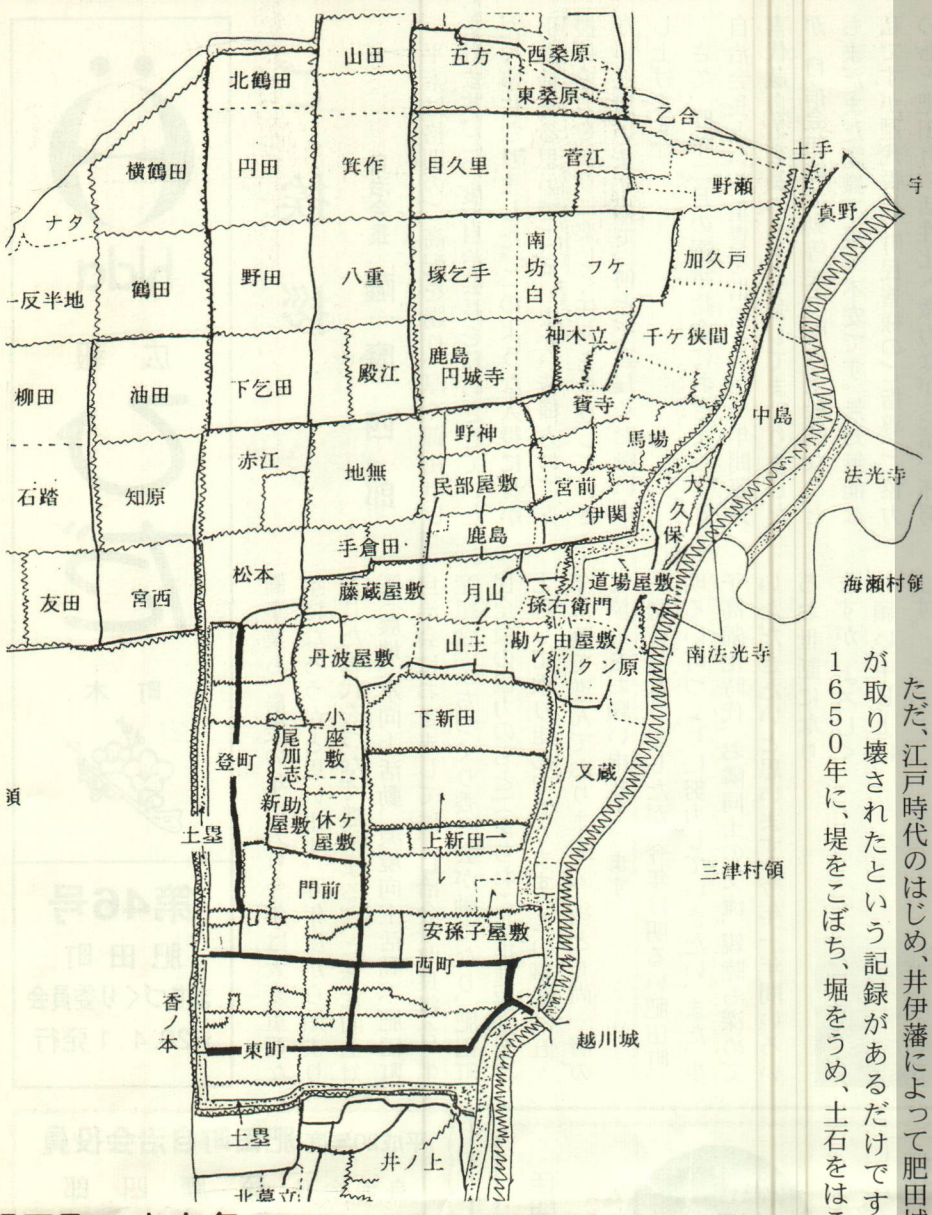
この城趾をとりかこむようにして武家屋敷跡らしい「小字名」がいつくか残っています。「小座敷（こざしき）」「丹波屋敷（たんばやしき）」「藤蔵屋敷（とうぞう）」「民部屋敷（みんぶ）」「勘解由屋敷（かんげゆ）」「孫右衛門（まごえもん）」「道場屋敷（どうじょう）」「安孫子屋敷（あびこ）」等など。崇徳寺過去帳には城主高野瀬氏の家臣で「久木丹波」また「藤野勘解由」の名がみえますし、水攻めを受けたときの城主、高野瀬秀隆の息子隆景を「民部大輔」といい、高野瀬氏没後の城主蜂屋氏の家臣に「安孫子」の名があり、それぞれ屋敷名と関係がありそうです。

三

肥田城趾と一連の武家屋敷をとり囲むようにして、南北に一筋、東西に二筋の直線道路がはしり、その道路をはさんで民家が立ちならんでいます。南北の長さ約300m、その小字を「登町（のぼりちょう）」とよび、東西二筋、この長さも約300mずつ、その町屋の在所をそれぞれ「東町（ひがしまち）」「西町（にしまち）」とよんできました。

これら全体をとりまいて、肥田の周りには、外敵の侵入や洪水を防ぐために、宇曽川とその堤防のほか、人口壕と土塁が東南から南西にかけて約800mにわたって築かれた城下町、戦国時代の城下町だったのです。

【次号に続く】



肥田町の小字名〈肥田村地券取調総絵図（明治6年10月）〉

蛍（ほたる）を呼びもどそう

まちおこし推進協議会

夏の風物詩の一つとして、嘗て宇曽川周辺で蛍の飛び交う風景を懐かしむ人も多い。今、私どもは圃場整備とも並行して農村環境向上活動が進められ、豊かな田園の生きものを育てようのテーマにも取り組んでいます。少し前の平成11年にはまちづくり委員会として県事務所が開催された蛍を育てようセミナーに参加し、その夢を捨てきれずに今日あり、昨年には、甲良町の外村さんと出会い蛍の自家養殖場も見学、そしてこの春、高宮町の「自然環境とほたるを守る会」代表　宇代はじめさんに研修の機会をいただき、宇代さんと肥田町を歩いて「ここが一番、羨ましい位に最適の地帯」と選んでいただきました。そこは皆さんが出かけ易い場所で、今年は先ずこの小川をゴミの無い美しい川を保つことから始め、来年には蛍が住みつく環境で光が飛び交い始める、皆が楽しめるゾーンに是非したいと考えています。皆様のご協力、よろしくお願い申し上げます。